



## 令和7年度 学校評価アンケート結果

～子どもたちの「今」を見つめ、共に「未来」を育むために～

児童・保護者・教職員の三者による評価の結果を対比・分析しました。現在の強みや今後の伸びしろを子どもたちの着実な成長を確認するとともに、現状の全体像と、家庭と学校で協力して取り組むべきポイントをまとめています。より豊かな学校生活を目指すための共有の資産として活用していきたいと考えています。

### 1. 【現状のよさ】高く評価されている3つの柱

ソースの肯定率（「とてもそう思う」「だいたいそう思う」）に基づき、本校の強みを整理しました。

| 重点項目    | 肯定率の状況<br>(抜粋) | 分析とインサイト                                    |
|---------|----------------|---------------------------------------------|
| 命と安全の意識 | 高学年:96.7%      | 「命や安全を大切にする」姿勢は全項目で最高値。安全教育が深く浸透しています。      |
| 学習の理解度  | 高学年:93.5%      | 昨年度(82.8%)から大幅に向上。「わかる授業」が子どもたちの自信に繋がっています。 |
| 相談体制の信頼 | 教職員:95.0%      | いじめや悩みへの対応に対し、教職員・保護者共に高い信頼を寄せています。         |

### 2. 【成長の軌跡】昨年度(R6)からの伸びが見られた項目

教職員の指導実感と、子どもたちの意欲が特に向上したポイントです。

#### 【肯定率の向上ランキング】

1. 教職員による「丁寧な言葉遣い」の指導実感: +22.1ポイント(57.9% → 80.0%)
2. 高学年の「自発的な運動習慣」: +11.4ポイント(73.7% → 85.1%)
3. 教職員の「あきらめずに学習する指導」: +11.2ポイント(58.8% → 70.0%)

解説: 学校全体で取り組んできた「言葉遣い」や「学習意欲」への働きかけが、教職員の視点から見て確かな手応え(+22.1pt)として現れています。また、高学年の体力向上への意欲(+11.4pt)も際立っています。

### 3. 【これからの伸びしろ】共に育みたい課題の可視化

評価が分かれた項目や、昨年度より低下した項目を「これからの伸びしろ」として整理しました。

#### ① 認識の違いが見られる項目（挨拶）

「自分から明るい挨拶」についての評価を比較すると、立場による差が鮮明です。

| 対象  | 肯定率 (4+3) | 「とても思う (4)」の内訳 |
|-----|-----------|----------------|
| 高学年 | 78.2%     | 40.3%          |
| 教職員 | 50.0%     | 0.0%           |

- **視点:** 児童の約8割は「できている」と感じていますが、教職員の最高評価(4)は0%です。これは「挨拶をすること」から、一歩進んで「自分から心を開いて挨拶すること」へのステップアップを期待されているサインと捉えました。

#### ② 家庭との連携を深めたい項目（ICT活用）

「クロームブックを学習に生かす」という項目では、保護者の評価に課題が見られます。

- **保護者の肯定率:** R6:56.6% → 現在:42.1% (-14.5ポイント)
- 「ほとんどそう思わない」という保護者回答: 24.0%
- **視点:** 学校での活用が進む一方で、家庭での活用実感が低下しています。端末をどのような「学びの道具」として活用しているか、より丁寧な発信と共有が求められています。

### 4. 総括：学校と家庭で歩みを揃えるために

今回のデータは、子どもたちが「安全・安心」な環境で「わかる喜び」を感じている一方で、「社会性（挨拶・言葉遣い）」や「ICT活用」において、さらなる高みを目指せることを示しています。

- **生活面での協力:** 低学年児童の言葉遣いの自己評価が低下(-19.0pt)しているのは、自分の行動を客観視し始めた成長の証でもあります。御家庭でも「相手が嬉しくなる言葉」について一緒に考えていただければ幸いです。
- **学習面での協力:** クロームブックについては、持ち帰り時の活用ルールや学習成果の共有を通じ、学校と家庭で「学びのアップデート」を共に進めていきましょう。

